



Little Players News

No. 180 2013年 3月

雪

は多いですが、確実に春は近づいていますね。

今年の発表会は9月8日(日)を予定しています。

紹介コーナー



♪ 今月は、フィンランドの偉大な作曲家シベリウス(1865~1957)についてお話したいと思います。

ジャン・シベリウス

シベリウスは、ヘルシンキ近郊のハメーンリンナで医師の息子として生まれました。北欧の自然を基調にした民族的な音楽を開拓した作曲家です。1885年ヘルシンキ音楽院で本格的に作曲を学びます。1892年、アイノと結婚します。1900年に交響詩「フィンランディア」を完成させ、大人気となりました。フィンランディアは、シベリウスの作品の中で最も有名な曲です。1904年、ヘルシンキ郊外のヤルヴェンパーに「アイノラ」(妻アイノの名にちなんで命名)を建て、後半生を過ごしました。1925年に交響詩「タピオラ」を書いたシベリウスは、それ以降、亡くなるまで作品を書きませんでした。

交響詩「フィンランディア」Op.26

当時、フィンランドは自国語を話すことを禁止されるなど、ロシアの圧政に苦しめられ、独立運動が起こっていました。そんな中、発表された、「苦悩や悲しみから開放され、勝利を迎える」という内容のこの曲は、国民に熱狂的に受け入れられました。フィンランド国民の愛国心を湧き起こすとして、脅威に感じたロシア政府が、この曲を演奏禁止処分にしたというのは有名な話です。

アイノラの思い出

1996年2月、ピアニストの館野 泉氏が企画したフィンランドツアーに思いがけず参加する事になりました。実は新婚旅行でアメリカ行きを計画していたものの、怪我などで2回もキャンセルした後、舞い込んできた話だったので、待った甲斐があつて、言葉では言い表せないほどの貴重な体験をしました。アイノラにはシベリウスが50才の誕生日に国民によって贈られたスタインウェイが置いてあり、館野 泉氏が私たちの為に特別に演奏してくださいました。シベリウスのピアノ曲は、実は100曲を超えるほどあるそうですが、あまり知られていません。それが、館野 泉氏による楽譜やCDのおかげで、ずいぶん知られるようになってきています。冬のアイノラで聴くシベリウスのピアノの音は、なんとも言えない不思議な魅力がありました。戸外は寒く雪が積もっていましたが、窓からは淡いオレンジ色の光が差し込み、心に染み入る美しく柔らかな調べに包まれました。演奏後、敷地内にあるシベリウスのお墓まで歩くと、キュツキュツと雪を踏む音が鳴って、北海道と似ているなあと思いました。シベリウスは水道の音を嫌っていたそうで、庭には井戸があり、「アイノ」と書かれていました。雪の中にひっそりと佇む、素敵なお墓の思い出です。

西川音楽教室

<http://soundwalking.com/>